

平成29年度(第61回)岩手県教育研究発表会

郷土の未来を支える生徒の育成

—「カリキュラム・マネジメント」による復興教育の取組を通して—

【第1年次】

八幡平市立西根第一中学校

資料訂正箇所

- P3 図1中 学校教育目→学校教育目標
- P5 表1タイトル 復校教育→復興教育
- P6 (2)教科・領域との望ましい関連のあり
方の検討について
1行目末～(実践例－巻末資料1)を削除
- P8 表4中
2年生【Unit1】2～4月
→2年生【Unit3及び1】2～4月

発表の流れ

発表資料

I ~ III・・・研究の目的(2分)

IV ~ V・・・研究の基本的な考え方と構想
(3分)

VI ~ VII・・・研究内容と次年度へ向けて
(10分)

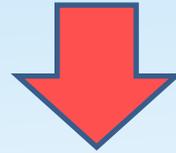
郷土の未来を支える生徒の育成

—「カリキュラム・マネジメント」による
復興教育の取組を通して—

II 研究主題設定の理由

1 教育の今日的課題から

東日本大震災津波発生からおよそ7年・・・
「いわての復興教育」のさらなる推進へ
目的は「復興・発展を支える人材育成」である。



生徒たちの実態や課題を把握

**求められる資質・能力を「ひと・もの・こと」と
の関わりの中から育成**

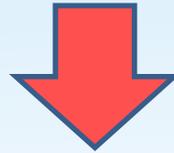
創意工夫を生かした教育活動の必要性

II 研究主題設定の理由

2 学校教育目標から

本校の学校教育目標

- 一、心身を鍛える生徒（健康）
- 二、自ら学ぶ生徒（知性）
- 三、心を豊かにする生徒（情操）
- 四、自主的に実践する生徒（自主）



目指す生徒像や育成すべき資質・能力は、全教育活動を通じて育むもの

地域のために考え行動できる生徒を育成するためには、創意ある教育活動を展開する必要がある

II 研究主題設定の理由

3 生徒の実態から

- 生徒会活動として積極的にボランティア活動に参加し地域に関わろうとしている。
- 災害や防災に関心をもち、理解を深めている。
- 道徳や特活に意欲的に取り組み、生き方や生命尊重、他者との関わりについて学びを深めている。
- △ 学習事項や生徒会活動、関わりについての学びを用いての応用や実践力に課題がある。

III 研究の目的

本校の復興教育を計画的・系統的に展開するため、教科・領域との望ましい関連のあり方を検討し、それに対応したPDCAサイクルの確立について明らかにする。



IV 研究の基本的な考え方

1 研究主題「郷土の未来を支える生徒の育成」について

○目指す生徒の姿

「自分や他人、そして、郷土を大切に思い、新たなよりよい社会を提案できる生徒」

「幅広い視野と的確な判断力を身に付け自ら実行できる生徒」

「どんな問題も乗り越えることができる汎用性をもって未来を切り拓く力を備えた生徒」

IV 研究の基本的な考え方

2 副主題「『カリキュラム・マネジメント』による復興教育の取組を通して」について

復興教育の3つの教育的価値に基づき、本校の特色を生かしながら、柔軟な発想と姿勢のもと、教科領域課程外の活動を創造的に編成することによって、「生きる力」の具現化を図っていく。

IV 研究の基本的な考え方

3 本校復興教育の展開の変遷について

○H28年度

- ・ 防災スクールの県指定を受け、27年度までの復興教育の取組を見直した。より専門的かつより実践的な学習活動（DIG実習・HAG実習・避難所運営実習・炊き出し実習）を取り入れ、系統的な学習体系の構築を目指した。
- ・ 実践的な学習活動の有効性と教科・領域との横断的な結びつきによる系統的な学習の有効性が明らかとなった。

○H29年度

- ・ 28年度の成果をもとに有機的に生徒の資質・能力の育成を図ることを目指し、教育活動全体を体系的に組織し、復興教育を推進するためのカリキュラム・マネジメントの推進を研究してきた。

V 本校復興教育の構想

1 学校経営の基本方針・重点への復興教育の位置づけ

「いわての復興教育」

学校教育目標

- | | |
|-------------------|---------------------|
| (1) 心身を鍛える生徒 (健康) | (3) 心を豊かにする生徒 (情操) |
| (2) 自ら学ぶ生徒 (知性) | (4) 自主的に実践する生徒 (自主) |

本年度の経営方針 (抜粋)

- (1) いじめや危険のない安心・安全な学校づくりを推進する。
- (4) 郷土の未来を支える人材の育成を目指して「いわての復興教育」を推進する。
- (5) 小学校との接続・家庭地域との連携によって円滑な接続と系統的な指導を実施する。

本年度の重点 (抜粋)

(2) 他律から自律への指導支援

- ① 適切な判断と自主的な行動ができるように考える場面を与える。
- ② 個および集団としての活動や取組みを支援しながら承認する。

(4) 家庭や地域との連携

- ② 地域行事への参加や地域での体験学習を通して復興教育を推進する。

復興教育を経営の基盤に位置づけた体系的・横断的な教育活動の展開

V 本校復興教育の構想

2 本校復興教育の重点および選択した教育活動

本校の復興・防災教育の目標

- (1) 人としての在り方や自らの生き方を考え、自他の生命を尊重し、思いやりや共助の精神を大切に生徒を育成する。
- (2) 郷土を愛し、地域社会の一員として自らの役割と責任を果たし、郷土の未来を支える生徒を育成する。
- (3) 自然災害発生のメカニズムや防災・減災について理解を深めるとともに、災害や事故から命を守るための技能や判断力を身に付け、自ら実践できる生徒を育成する。

本校の復興・防災教育

—郷土の未来を支える人になろう—

「ひと・もの・こと」とかかわる体験を通して物事をとらえ、振り返り、さらに新たな目標を見出す。

1年生テーマ「地域を知る」

2年生テーマ「岩手を学ぶ」

3年生テーマ「未来を考える」

選択した 具体の項目	3つの教育的価値			選択した「教育活動」	各教科指導での復興・防災教育の展開の工夫
	1【いきる】	2【かかわる】	3【そなえる】		
①				健康教育(1年:薬物乱用防止教室、2年:思春期健康講話、3年:思春期健康講話、 全学年:救命救急講習)、道徳教育	「避難所運営実習を柱に充実した防災教育の展開の工夫」
④				キャリア教育(1年:農業体験、2年:職場体験、3年:職業講話) 道徳教育	
		⑪		ボランティア教育(全校:独居高齢者暑中見舞い・年賀状制作、学年:学年による計画、有志:介護施設・保育所訪問、赤い羽根街頭募金、地域行事運営、スノーバスターズ、書き損じはがき回収)、PTA環境整備、道徳教育	
		⑬		地域との交流(体育祭・西鈴祭高齢者招待)、 伝統芸能(岩手山山伏神楽、寺田さんさ踊り、野口鹿踊り、染田鼓動) 道徳教育	
			⑮	1年:防災講演会、2年:学校間交流・震災津波体験を聞く会、3年:教科指導、全校: 東日本大震災追悼集会	
			⑯	防災教育 (全学年:避難訓練) 1年:防災講演会(八幡平市の自然災害・火山災害) 地域調査(野外体験学習、野外炊事体験) 地域防災マップ作り 2年:震災学習(田老一中との交流学習、被災地状況調査) DIG実習 3年:HUG実習 避難所運営実習、炊き出し訓練	
			⑰		
			⑱		
			⑳		
			㉑		
			㉒		

V 本校復興教育の構想

3 29年度本校復興教育の年間指導計画

月	価値・項目	全学年	1学年	2学年	3学年	教科領域	関連した復興教育副読本のページ	教員研修
		郷土の未来を支える人になろう	地域を知る	岩手を学ぶ	未来を考える			
4	3				・修学旅行(防災学習)	特活		心と体の健康観察
	1・③、2・⑪	※通年ボランティア(書き損じはがき・テレカ回収)				特活	P.28・34・38	復興教育研修
	1・③、2・⑪	※1学期学年ボランティア見通しと実施				特活	P.28・38・34	
	1・④				・【郷土への思い】4-8	道徳		
5	2・⑨⑪⑫⑬	・体育祭(異年齢集団による交流活動)				特活	P.30・40・44	校内研究会
	1・③、2・⑪	※体育祭地域高齢者招待ボランティア				特活	P.28・34・38	
	3・⑳	・避難訓練(学校環境調査、防災メモ)				特活	P.64・65・66	
	1・①				・【男女の理解】2-4	道徳	○	
6	1・①	・救命救急講習				特活	P.66	校内研究会
	3		防災講演会(八幡平市の自然災害・火山災害・防災)			特活	P.48~63	
	1・④		・【奉仕の精神】4-5			道徳	○	
	2・⑪				・【郷土を愛する心】4-8	道徳	○	
	2・⑬					道徳	○	
	3	防災教科月間				全教科	○	
7	3・⑮			・震災津波体験を聞く会		特活	P.48	校内研究会
	2・⑫⑭			・田老一中交流学习		特活	P.35・36・40・42・44	
	2・⑬			・八幡平市の紹介・伝統芸能		特活	P.32・35・36・40	
	3			・宿泊研修		総合	P.69~72	
	3		・野外体験活動			特活	○	
	1・①				・【命をいとおしむ】3-1	道徳	○	
	1・④				・【自分を探そう】1-5	道徳	○	
1・③、2・⑪	※介護施設・保育所訪問ボランティア ※独居高齢者暑中見舞いボランティア				特活	P.18~24・28・34・38		
8	1・③、2・⑪	※地区民運動会生徒役員ボランティア				課外	P.28・34・38	HUG研修
	2・⑬				・【日本人の心】4-9	道徳	○	DIG研修
9	1・④、2・⑬		・農業体験学習			総合	P.32・35・36・40	校内研究会
	1・④			・職業体験学習	・職業講話	総合	P.10	
10	3	防災教科月間				全教科	○	校内研究会
	3		・防災マップ作り	・DIG実習	・HUG実習(地域防災学習)	特活		
	3・⑱⑲⑳				・避難所運営・炊き出し実習	総合	P.66・67	
	3	・避難所運営実習				総合	P.18~21・64・65・66・68	
	3・㉑	・避難訓練(学校環境調査、防災メモ)				特活	P.64・65・66	
	1・①				・思春期健康講話「つながる命とかけがえない自分」	特活	P.4・5	
	1・①		・薬物乱用防止教室			特活		
1・③、2・⑪	※西鈴祭地域高齢者招待ボランティア				特活	P.28・34・38		
11	2・⑪		・【真の思いやりとは】2-2	・【ともに支え合う】4-5		道徳	○	校内研究会
	1・①			・【集団生活の向上】4-4		道徳	○	校内研究会
	1・①			・【健全な異性観】2-4		道徳	○	校内研究会

VI 本年度の研究内容

1 29年度研究推進を通して明らかになったことから

(1)復興教育の年間指導計画の見直しについて

郷土の未来を支える
人になろう

1年生
「地域を知る」

2年生
「岩手を学ぶ」

3年生
「未来を考える」
4月 修学旅行

教員
4月 研修会
「復興教育」

6月 防災教科月間①

6月 防災講演会
7月 野外体験学習

7月 宿泊研修

10月 防災教科月間②

10月 DIG実習

10月 HUG実習

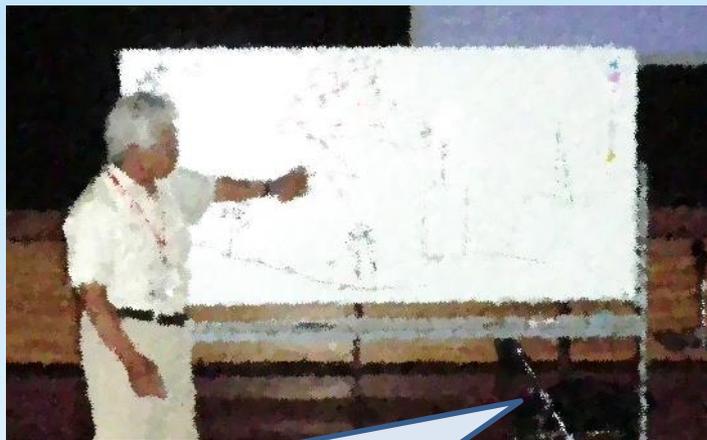
10月 DIG実習

10月 避難所運営実習・炊き出し実習

1年生

(1)復興教育の年間指導計画の見直しについて

○ 防災講演会 講師 地域防災サポーター 木村博先生



ねらい

防災学習の一環として、一中学区で想定される自然災害について学び、これからの防災学習活動に向けて課題意識をもって主体的に取り組むための意欲を高める。

1年生

(1)復興教育の年間指導計画の見直しについて

○ 野外体験学習

岩手山国際交流村
溶岩流散策路
焼走り登山道

溶岩流・噴出口見学
炊き出し訓練

ねらい

八幡平市の自然環境
に触れ、地域の自然に
親しむ態度を育てる。

自然災害の発生メカ
ニズムや災害や防災に
ついて考えさせる。



○ 宿泊研修 宮古市

- ・ 震災学習

 - 「学ぶ防災」「震災体験談とグループ学習会」

 - 「700名の避難生活」「震災学習列車乗車」

- ・ 田老第一中学校2年生との交流会

- ・ 浄土ヶ浜清掃 ・ 三陸ジオパーク見学

ねらい

震災とその被害、その後の復興の状況について理解し、命の大切さや防災に対する意識の向上を図る。



2年生

(1)復興教育の年間指導計画の見直しについて

○ DIG実習

講師 岩手大学地域防災研究センター助教授 鴨志田直人先生

ねらい

1学年における地域防災学習を生かし、さらに防災に関する理解を深めるとともに、より実践的な行動や考え方について学び、自らの生活に生かしていこうとする態度を育てる。



○ 修学旅行

防災学習「東京臨海広域防災公園そなエリア
防災体験・施設見学」

ねらい

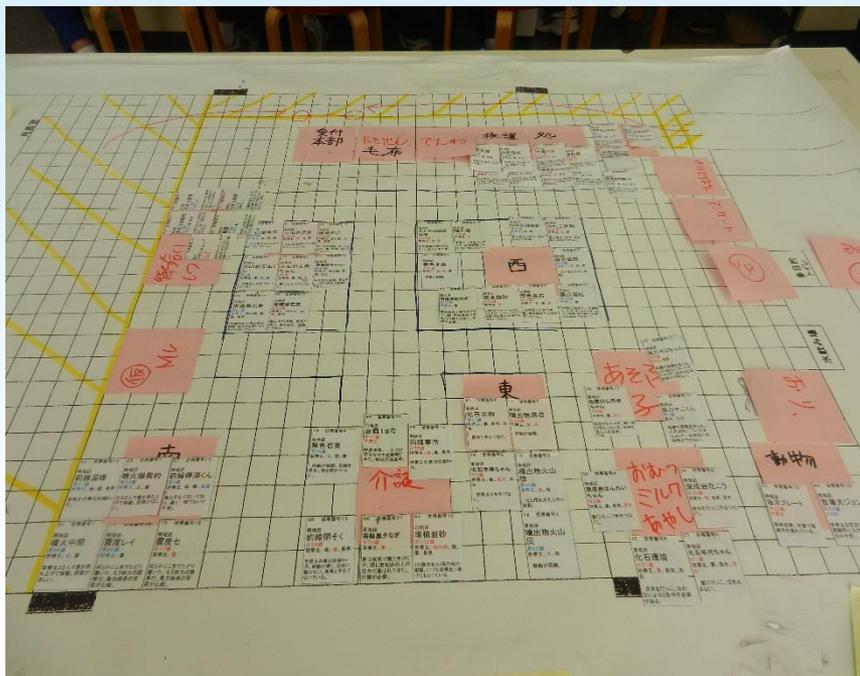
首都東京の文化・産業・生活・歴史・防災などについて学んだり、見学・体験したりすることで、郷土との違いや郷土の良さについて考える。



○ HUG実習 (→避難所運営実習)

ねらい

HUG実習および避難所運営実習を通して、自己に関わる問題と主体的に向き合い、他人を思いやりながら共助の精神のもと、協力して解決に向かう態度を養う。また、避難所運営において、よりよい避難所生活のための必要な機能とスペースを確保すること、様々な事情を抱えた避難者個々への配慮した対応や配置をすることを考えながらスムーズな運営を目指す。



○ 避難所運営実習・炊き出し実習

ねらい（1・2年生）

自分とは異なる性別・年齢・健康状態などをもった避難者役を演じることを通して他者理解をはかるとともに、運営者の対応から共助のあり方について学ぶ。また、避難者の視点から運営について学び、目標をもって次年度の運営に生かせるよう意欲を高める。



○ 避難所運営実習・炊き出し実習



○ 避難所運営実習・炊き出し実習



1 29年度研究推進を通して明らかになったことから

(1)復興教育の年間指導計画の見直しについて

明らかになったこと

『郷土の未来を支える人になろう』、1学年「地域を知る」、2学年「岩手を学ぶ」、3学年「未来を考える」をテーマに「防災講演会」「DIG実習」「(HUG実習)避難所運営実習・炊き出し実習」等を行った。これら柱となる活動それぞれの成果と課題が見えた。どの学年でどの時期に実施するかを整理し、活動間のつながりを体系的に再編成し指導計画を整備していくことの重要性が明らかになった。

→【体系的な再編成】

1 29年度研究推進を通して明らかになったことから

(2)教科・領域との望ましい関連のあり方について

6月防災教科月間

1年 数学 (6月23日実施)

「雷までの距離を求めよう」

文字式の文字に数を代入して式の値を求める授業を行いました。文字式はどんな数であっても計算方法が変わらない場合など、文字を利用して一般化することで式の構成を理解できることが良い面です。文字式に具体的な数を代入し、それまでに学習した四則計算を活用していきます。

文字式の代入・式の値を身近な問題としてとらえる例は速さと音の速さのズレがあります。雷が光ってから音が聞こえるまでに何秒かかるのかによって雷の位置までの距離が求められます。根拠のある予測をできることが、自分の身や命を守るための判断材料となります。数学を学ぶことにより、危険や安全ぐあいを説明したり、安全のために必要な数量を求めたりするなど、生活の中で数学を活かすことを期待しています。

空气中を伝わる音の速さを表す式
毎秒 $(331.5+0.6t)$ m

※ t は気温

気温によって空气中を伝わる音の速さが異なることがいえる。雷が光った瞬間から音が聞こえるまでの時間を計り、危険度を自分で知ることができるようにしましょう。



問 5 空气中を伝わる音の速さは、そのときの気温によって異なります。気温が $t^{\circ}\text{C}$ のときの音の速さは次の式で表されます。

毎秒 $(331.5 + 0.6t)$ m

- (1) 気温が 0°C のときの音の速さを求めなさい。
- (2) 気温が 30°C のとき、雷が光ってから2秒後に音が聞こえました。雷までの距離は、何mと考えられますか。

6月防災教科月間

2年 理科 (5月29日実施)

「明日の天気はどうなるか」

天気図から様々な気象情報を読み取り、未来の天気を予測する授業を行いました。これまでに学習してきた天気図記号や天気の移り変わりの自然法則、高気圧や低気圧付近の風向・気流・移動方向、前線の特徴や天気への影響、寒気と暖気の捉え、さらに、経験則などの基礎知識をフルに活用する機会となりました。

天気予報は、私たちの生活を円滑に、そして豊かなものにするために欠かせないものであり、さらには防災という観点でも自然災害から命を守るためにも大きな意味があります。この学習を通して、正しい情報をもとに自ら分析・判断し、行動できるスキルが身につくことを期待しています。



← 5月29日午前3時の天気図をもとに、5月30日の天気を予測しました。

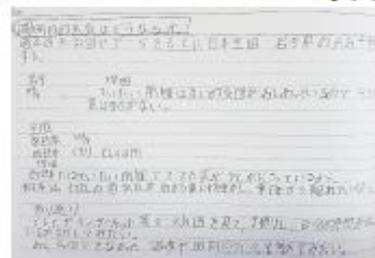
← 1ヶ月間の過去の天気図や気象衛星からの雲画像、アメダス予報などの情報をもとにしっかりと分析できていました。



← 基礎知識をもとに、それぞれの意見を出し合って考えました。



← ただ天気を予測するだけでなく、もともとなる根拠を挙げて発表しました。



← 授業後の振り返り。「インターネットやテレビを見て、もう一度天気予報にチャレンジしてみたい」という感想もありました。お天気お姉さんに負けない良い発表だったと思います。今回の天気図からの天気予測は難易度が高かったと思いましたが、さえない天気を当てた班もありました。

(2)教科・領域との望ましい関連のあり方について

6月防災教科月間

2年 国語 (6月14日～実施)

「魅力的な提案をしよう」

「プレゼンテーションをする」

プレゼンテーションは、相手の理解や同意を得るために、自分の考えや調査したことを提示して、提案・説明するものです。いわば相手への情報の「プレゼント」です。「説明して聞き手の理解を得る。」「提案して相手に自分の考えを実行に移してもらおう。」を目的として、プレゼンテーションについて学習しました。

提案するテーマは「防災の一つとしてぜひこれを！」、相手は「地域のみなさん」です。相手の必要としていることは何かを考えながら材料を集め、そして、愚も伝えたいことが明確になるように構成を考えます。提案の方法の一つであるプレゼンテーションの学習ですが、今までの学習をふり返り、また、新しい知識を吸収しながら、防災について考える時間にもなることを期待しています。

① 提案する相手と目的を決める

- テーマ 防災の一つとしてぜひこれを！
- 相手 地域のみなさん
- 1班 噴火について知ろう！
- 2班 防災グッズをそばに置いておきましょう
- 3班 家族会議を聞こう！
- 4班 応急手当の基本をおぼえよう
- 5班 地震に備えましょう

- ② 多様な方法で、材料を集める
- ③ 材料を整理して、進捗案を作る



図書館にある本や「いさる かかわる ↑ぞなえる」などから材料を集めます。↓



個人で考えた進捗案を持ち寄り、グループで検討します。(役割分担や時間の配分、提示資料の内容、タイミング、方法など)

④ プレゼンテーションをする ⑤ 提案を評価し合う は7月7日(金)に実施予定です

防災教科月間 (6月・10月)

6月防災教科月間
2年 理科 (5月29日実施)

「明日の天気はどうなるか」

天気予報の仕組みや天気予報のしくみ、気象観測の方法や天気予報のしくみについて学びました。また、天気予報のしくみや天気予報のしくみについて学びました。

6月防災教科月間
1年 理科 (6月7日実施)

「器具の扱いや実験操作には、なぜまきりがあるのか？」

器具の扱いや実験操作には、なぜまきりがあるのか？について学びました。また、器具の扱いや実験操作には、なぜまきりがあるのか？について学びました。

6月防災教科月間
3年 国語

「防災講座」

防災講座に参加し、防災について学びました。また、防災について学びました。

6月防災教科月間
3年 理科 (6月6-7日実施)

「手作り電池をつくらう」

手作り電池をつくらうについて学びました。また、手作り電池をつくらうについて学びました。

6月防災教科月間
3年 社会 (6月1日実施)

「日本の占領」

日本の占領について学びました。また、日本の占領について学びました。

6月防災教科月間
1年 保健体育

「できますスポー」

できますスポーについて学びました。また、できますスポーについて学びました。

1 29年度研究推進を通して明らかになったことから

(2)教科・領域との望ましい関連のあり方について

明らかになったこと

復興・防災教育に関わるねらいを明らかにしながら授業を行うことができた。効果的な指導方法の吟味や各学年の柱となる学習活動への有機的なつながりを強めるためのあり方を模索していく必要がある。

また、柱となる学習活動と教科・領域で身に付けさせたい力との相乗効果をねらい、より効果的な指導配列にしていくために「Unit」づくりが必要であることが明らかになった。

→【Unit(単元)づくり】

1 29年度研究推進を通して明らかになったことから

(3)評価のあり方について

「Unit」を形成するにあたり、その一端を担う学習活動が「Unit」を効果的に高めるものであるかの検討が必要となってくる。その際、PDCAサイクルによる見直しをかけていくために、本校復興教育の目標に則した評価規準を定め、よりよい評価のあり方を検討していかなければならない。

→【評価のあり方と工夫】

VI 本年度の研究内容

2 「Unit」の形成の考え方

「29年度復興・防災教育年間指導計画」をベースに選択した「柱となる防災学習」と、そのねらいに向けて有機的に補充・補完する教育的価値を明らかにした教科・領域とによって構成された、一連の学習の配列をもって体系化された復興教育の単元を「Unit」とする。

2 「Unit」の形成の考え方

「Unit」の流れ

1 つ の U n i t	オリエンテーション
	教科・領域
	Unitの柱となる防災学習
	教科・領域
	Unitのまとめ

2 「Unit」の形成の考え方

年間の「Unit」構成

	1 学年	2 学年	3 学年
1 学期	Unit 1	Unit 1	Unit 1
2 学期	Unit 2	Unit 2	Unit 2
3 学期	Unit 3 (年間の振り返り)	Unit 3 (年間の振り返り)	Unit 3 (年間の振り返り)

2 「Unit」の形成の考え方

「Unit」—2学年

		【Unit2】10～11月			
【Unit2】	10/11	総合	避難所運営実習オリエンテーション		
		特活	西鈴祭 ・地域高齢者招待ボランティア ・地域伝統芸能発表 ・ソーラン	P.28・34・38 P.32・35・36・40	
		1③、2⑪⑬ 2⑬ 1③、2⑪⑬			
	11	2⑨⑫⑬	社会	身近な地域の調査、(地形図、地図記号)	P.24～47
		3⑱⑳	英語	災害用語、緊急時の会話	
	Unit	1②、3⑰	道徳	D(21)畏敬の念	○
		3⑱	道徳	A(1)自主、自立	○
		2⑨⑬、3⑰⑱⑳㉑	特活	DIG実習(東京編)	P.66・67
		2⑨	道徳	B(9)相互理解、寛容	○
		1①、3⑰⑱⑳㉑	体育	自然災害による危険	
		1、2、3	総合	避難所運営実習(避難者)	P.18～21・64・65・66・68
		3・⑱⑳㉑	特活	避難訓練(行動判断)	P.58・59・64・65・66
Unitのまとめ「自己評価」					

VI 本年度の研究内容

3 PDCAサイクルを支えるための評価規準

	観点	「3つの教育的価値」への 関心・意欲・態度	「3つの教育的価値」に ついての思考・判断・実践	「3つの教育的価値」に ついての知識・技能
一 学 年	趣 旨	自己との関わりを通して問題を捉え、よりよい生き方のために自己の生活の向上を図ろうとしている。	自己との関わりから捉えた問題の解決について、自己のよりよい生き方に目を向けて考え、判断し、実践している。	自己がよりよく生きる大切さや実践の方法について理解し、自己の生活の向上のための見方・考え方や技能を身に付けている。
二 学 年	趣 旨	他者との関わりから問題を捉え、よりよい生き方のために集団の生活の向上を図ろうとしている。	他者との関わりから捉えた問題の解決について、集団のよりよい生活のために考え、判断し、実践している。	他者がよりよく生きる大切さや実践の方法について理解し、集団の生活の向上のための見方・考え方や技能を身に付けている。
三 学 年	趣 旨	自他の関係から問題を捉え、よりよい生き方のために新たな目標を見出そうとしている。	自他の関係から捉えた問題の解決について、自他のよりよい生き方と社会のよりよい生活のために考え、判断し、 実践しようとしている。	自他がよりよく生きる大切さや実践の方法について理解し、生活の向上のための見方・考え方や技能を身に付けている。

VII 本年度の成果と次年度の方向性

- 再編成したカリキュラムを計画的に実践し、検証する。
- 実践によって、よりよいPDCAサイクルの確立を図る。



平成29年度(第61回)岩手県教育研究発表会

郷土の未来を支える生徒の育成

—「カリキュラム・マネジメント」による復興教育の取組を通して—

【第1年次】

八幡平市立西根第一中学校